

夢のつばさ♥プロジェクト 2015年度 事業報告書  
2015年4月1日～2016年3月31日

## 1. キャンプ

## (1) 夏キャンプ

【実施期間】2015年8月4日～8月7日

【開催地】(株)ブリヂストン保養所 奥多摩園 (青梅市)

【参加内訳】子ども24名、学生ボランティア40名(途中入替わりを含む)、社会人ボランティアスタッフ・協力者18名

## 【主な内容】

8月 5日	開会式、アイスブレイクゲーム
8月 6日	朝の勉強会、東京スカイツリー見学
8月 7日	朝の勉強会、クイズ大会、科学実験教室、音楽会(声楽・ソプラノ、フルート)
8月 8日	閉会式、写真スライドショー

## (2) 秋の交流会

【実施期間】2015年10月18日

【開催地】宮城県仙台市(榴ヶ岡公園、仙台市青葉体育館)

【参加内訳】子ども17名、学生ボランティア26名、社会人ボランティアスタッフ3名

【主な内容】夏・冬の宿泊キャンプに参加した子どもと心の交流を続けるために、春に被災地で行ってきた日帰り活動を増やし、秋にも開催、今回で2回目となる。手つなぎ鬼、ケードロなどで走り回った後、ハロウィンのランタンの工作を楽しんだ。学生の代表数名が保護者の方たちと話し合う機会も設けた。また保護者2名からのご希望により、社会人スタッフの心理カウンセラーが、個人面談を行った。

## (3) 冬キャンプ

【実施期間】2015年12月23日～26日

【開催地】(株)ブリヂストン保養所 奥多摩園 (青梅市)

【参加内訳】子ども25名、学生ボランティア34名(途中入替わりを含む)、社会人ボランティアスタッフ・協力者13名

## 【主な内容】

12月 21日	開会式、アイスブレイク、食育講座
12月 22日	朝の勉強会、トランプ大会、クリスマス会、音楽会(バイオリン・ピアノ)
12月 23日	朝の勉強会、写真立て作り、交流タイム、子どもミーティング
12月 24日	閉会式、写真スライドショー

## (4) 2016年春の交流会

【実施日】2016年3月27日(日帰り)

【開催地】宮城県仙台市(仙台市青葉区中央市民センター調理室、富沢市民センター体育館)

【実施内訳】子ども15名、保護者5名、学生ボランティア23名、社会人スタッフ2名

【主な内容】カレーライス作り、球技(冬の子どもミーティングの企画による)、保護者懇談会を実施。

## 2. その他事業

### (1) 広報活動

以下のイベントで夢のつばさプロジェクトの活動紹介を行った。

日時	イベント（実施者）	対象	場所
2015.4.17	日本学術会議・富山房インターナショナル共催 第100回サイエンスカフェ（室伏）	一般 約30名	東京都
2015.4.28	社団法人桜蔭会首都圏4支部懇談会（室伏）	東京支部、神奈川支部、 千葉支部、埼玉支部 役員等約15名	東京都
2015.6.6	田園調布学園土曜プログラム（滝澤）	中高生 約30名	東京都
2015.6.18	東京女子医科大学看護専門学校（滝澤）	看護学生 約80名	東京都
2015.7.27	日本の次世代リーダー養成塾（室伏）	高校生 約160名、教員 等約300名	宗像市
2015.9.13	日本小児歯科学会 関東地方会第30回記念大会 特別講演（室伏）	一般・小児歯科医 約 500名	東京都
2015.10.3	社団法人桜蔭会東京支部講演会（室伏）	一般 約100名	東京都

### (2) ボランティア学生の活動

ボランティアの大学生らは、1～2週に1回、お茶の水女子大学内で会合を開き、総務部、企画部、つながり部、渉外部などに分かれて、夏・冬のキャンプや秋・春の交流会の企画を練ったり準備を行ったりしている。また、子どもたちへ誕生日カードを送ったり、近況を報告しあう新聞を作成したりして、子どもや学生間の交流を図っている。

夢のつばさプロジェクトの広報や活動資金獲得に対しても関心を持ち、自主的な募金活動も続けている。例年、8月のたまプラーザ商店街のお祭り、12月の豊洲市民マラソンに有志が参加してイベントを手伝い、広報活動を行っている。また新入生勧誘を各大学で行うなど、活動グループとしても周知を図っている。近年、学年間の引継ぎもかなりスムーズになっており、子どもに対する配慮など、高い意識を持って取り組んでいる。

子ども達は小、中、高と長く活動に参加するので、卒業したOB、OGの参加も大変歓迎される。現在のOB・OGは社会に出て間もないため、なかなか社会人ボランティアとして実質的な活動までいたることは少ないが、将来の貴重な人材であり、徐々にではあるがOB会組織化の段階に入ってきた。

## 3. 総括

支援プロジェクトは順調に進められており、毎回、募集人数（25名程度）を超える応募が続いている。本年度、これまで募集活動に協力の得られなかった宮城県教育庁が、「高校生に支援があること」、「HPも充実しており活動への信頼がおけること」、などを理由として子どもの募集要項のデータを各市町村の教育委員会へ繋いでくれることになった。早速、仙台市内から新しい参加者申込みが数件あった。大震災で夫と実家家族をすべて失い4人の子を育てている母親からの連絡に、夢のつばさの活動がこれから

も孤児・遺児家族に、なんらかの役割を果たせるのではないかと改めて実感した。東北各地の教育委員会や児童家庭課等と連絡を絶やさないように、キャンプごとに連絡報告を行っていく。

大震災から日時が経って、子どもの生活が平常時のものになってくるにつれ、子どもの参加募集の課題として、2点明らかになってきた。まず1点として、子どもが中学校に入学して部活に配属されると、自由時間のほとんどがクラブ活動に費やされるようになることである。特に体育系や、東北被災各地に盛んになっている吹奏楽部などの場合、その子どもが夢のつばさの活動に慣れ、意欲的な面を見せ始めるようになってきていても、学校の部活動によって長期休みも土日も、スケジュールを大きく拘束され、夢のつばさのイベントに参加できない状況になって行く様子が見られる。「年長の子が、年少の子の面倒を見て、ともに助け合って成長する」ことや、「様々な興味関心を伸ばし、教養を育む」ためのゆとりのない生活になっていることに危惧を覚える。

もう1点の課題は、東北地方、特に岩手県の冬休み開始時期である。学校により、また年度により少しずつ異なり、ここ数年は、12月24、25日を含むクリスマスキャンプへの参加が可能であったが、通常は冬休みの開始日が12月27日となる学校が多い。現在活動拠点としている(株)ブリヂストン保養所奥多摩園はクリスマスキャンプの実施日程に対し、最大限の協力をいただいているが、12月27日以降となれば、年末年始の繁忙期に入り、その日程にキャンプを開催することも困難であり、また子ども達がやはり楽しみにしているクリスマス会を行うことができない。これらの課題に対しては、長くあきらめずに子どもとの接触を保ち続けていくしかないと考えている。

昨年、「この活動にご協力くださる方々のご厚意に対して、子どもや活動に携わる大学生たちが感謝することを忘れないよう、しっかり留意させたい。」と挙げた。ゲストをお呼びする音楽会などの企画では、子どもから開始・終了の挨拶をして感謝の意を表するように促してきたが、イベントの司会を子どもが担当するスタイルが少しずつ定着してきているので、示された温かい心を感じ取ってすぐに感謝に顕せるよう、今後も意識付けしていきたい。また、支援を受けるばかりでなく、子どもたち自身が「誰かの役に立っている」と実感できる機会をなるべく多く作りたいと考えている。

夢のつばさプロジェクトは、2015年度、のべ19団体、個人153名(2014年度22団体、217名)からご寄附をいただいた。東日本大震災から丸5年を迎え、新規の個人寄附者は減少を続けているが、継続してご支援くださる方や、団体、企業などに支えられて活動を続けている。ご寄附の方へお送りする夢のつばさ通信は10月に第7号、3月に第8号を発行した。今年度は夢のつばさ奨学基金が整い、専門学校生1名に、月額1万円の奨学金を授与している。

認定NPO法人認証のための活動では、監督庁から、銀行振り込みでは寄附者の本人確認及び意思確認が取れないという指摘があり、夢のつばさプロジェクトがご寄附に際して寄附申込書をいただいていたことがネックになっている。これに対し現在寄附申込書を整え、年間必要数(100名)を確保すべく、2015年度のご寄附者へ手紙による依頼を行っているところである。